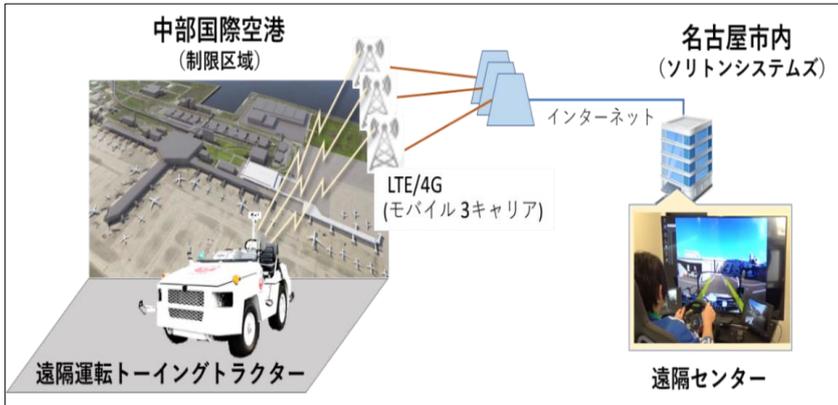




中部国際空港にて貨物牽引車を遠隔運転する実証実験に参画

～新しい働き方の実現に向けて、より実践的な実証実験を行います～



《システム概要図》



《遠隔センター(遠隔運転操縦装置)》

JALは中部国際空港制限区域内にて空港内作業車両の「トーイングトラクター(*1)」を使用して遠隔で運転を行う実証実験に参画します。

(*1)空港制限区域内にて航空貨物やお客さまの手荷物の運送用コンテナを牽引する車両

本実証実験については、通信・IT事業を行う株式会社ソリトンシステムズ(以下ソリトン)が実施主体となり、運転操作は中部スカイサポート株式会社(以下CSS)の協力の下、当社は試験車両の提供及び運営サポートを行います。

使用するトーイングトラクターは、JALが現在運用中の車両をベースに、ソリトンが開発した遠隔運転操縦システム(以下遠隔システム)を搭載したものです。名古屋市内に設置したソリトンの遠隔センターから、中部国際空港内での運転資格を有するCSSの社員が、遠隔でこの車両の運転操作を行います。

空港内車両を使用しての遠隔運転は、昨年5月末に中部国際空港にて今般使用するトーイングトラクター単体での実証実験を行いましたが、今回は貨物用コンテナ2台を牽引し、遠隔での運転を行います。

実証実験を通して遠隔による運転操作の実用性及び走行安全性の評価、確認を行い、多様な環境での走行技術の検証や、将来の実用化に向けた課題の抽出に取り組んでまいります。

1. 実施期間
2023年1月23日～1月27日(5日間)
2. 実施空港
中部国際空港(愛知県愛知県常滑市セントレア)
3. 実験車両
JAL保有トーイングトラクター 1台
4. 遠隔運転操縦システム
ソリトンシステムズ開発
(同社「Smart-telecaster Zao」適用)



《遠隔運転トーイングトラクター》